

病棟や部署の特徴について

ヘリポート

地域災害医療センターとして、災害の発生時や山岳などでの遭難時などに重症救急患者さんの受入れや、専門病院への患者の搬送も行っています。

2015年の4月からドクターヘリの運用も始まり、当院はヘリポート使用件数は年間30件以上あります。

レディース病棟

病床数は35床、8Fをレディース病棟として運営しています。主に婦人科や整形外科手術後の急性期ケアや高齢患者の看護ケアを行っています。また、多岐に渡る疾患にも対応している混合病棟です。スタッフも全員女性できめ細やかな看護を目指しています。

産婦人科病棟

平成17年3月31日より地域周産期母子医療センターに指定されています。病床数は36床、令和元年12月病棟編成にて産科単科の病棟になりました。分娩件数は、500件を超えています。多くの助産師、看護師がやりがいをもって働いています。湖北・湖東地域の周産期医療の充実を目指しています。

小児病棟

当院は地域周産期母子医療センターで、7西病棟は15歳未満のお子さんが入院する小児病棟（38床）とNICU・GCUが併設されています。令和元年にNICU・GCU改築工事が行われ、NICUの病床数が6床から9床に拡張されました。これにより最新の設備・機器が取り揃えられ最先端の医療が提供できるようになりました。併設のGCUは12床でNICUとともに改築され、快適な療養環境が整いました。

小児病棟は主に急性疾患児を中心に入院治療しています。手術目的に入院されるお子さんもおられます。採血や点滴、処置などを頑張るお部屋（処置室）は、キャラクターで飾り付けがしていたり、処置中には自分の好きなDVDがみられるようになっています。プレイルームは令和元年度に改築され、広く温かい雰囲気ので絵本やおもちゃがいっぱいあります。主治医の許可がでたお子さんが集まって遊んでいます。

救急病棟

ICU7床を含む20床で、常時4対1の手厚い看護配置となっています。24時間体制で救急入院患者を受入れています。緊急事態に対応できるよう手術室等に隣接しています。

一ヶ月約2000人余りの救命センター受診患者があり、そのうちの約15%が入院になっています。

救命救急センター

三次救命救急センターに指定されており、湖北医療圏の救命救急の拠点です。毎月約2000人の受診者があり年間約2万人が受診されています。

手術室

7室の手術室があり、クリーンルームを設けています。年間の手術件数は約3900件です。

2018年からロボット支援手術も導入しており、年間55件行っています。

（2019年度実績）

地域医療連携課

当院は昨年2009年6月には地域医療支援病院に承認されました。地域連携の窓口として地域医療連携室を設置しています。また、地域の先生方の為の開放型病床を20床分散配置しています。

紹介患者さんの受入れは、主にFAXと電話で行っています。診察予約以外に、放射線検査、内視鏡検査の受入れも行っています。

訪問看護ステーション

8名の看護師と2名の理学療法士が、在宅で療養されている利用者さんのお宅に訪問し、安心して療養生活を送っていただけるようなケアを提供しています。約150名の利用者さんがおられ、1日30件くらい訪問しています。訪問看護ステーションの所長は訪問看護認定看護師の資格をもっています。

災害備蓄倉庫

当院は地域災害拠点病院として、災害時における患者の多数発生時（外来患者については通常時の5倍、入院患者については2倍を想定）に対応可能なスペースとベッド等の備蓄を整えております。災害に備えて入院患者の3日分の食料・水や医療材料を備蓄しています。

主な備蓄品として、救援用毛布1670枚、安眠セット50セット、緊急セット180セット、救護班医療セット2セット、初動救護班用1セット、医薬品6700人分、停電時コンセント・照明器具、放射線災害時対応機器等を準備し、その他に食料としてご飯など7884食、缶詰2280缶、飲料水500ml・2000ml合わせて960L、雑用水480t等を確保しています。赤十字救護班は、6個班と日本DMAT隊員3隊が災害時に向けて研修を受け待機をしています。東日本大震災では被災県3県（岩手・宮城・福島）に対して発災当日から9月までの間に救護班、病院支援、こころのケア要員として69名を派遣しました。